

無限の好奇心と探究心で
0から1を生み出す——。

宇輝人 vol.63

展示会開催

本田さんの作品を展示します。
期間 8月3日(日)～13日(金)
(土・日・祝日除く)
場所 宇城市 小川支所
圓 ヒロ・デザイン専門学校
☎096-352-9059

本田 麗安 Honda Rean

松橋町在住。平成28年松橋中卒。
熊農高3年生の時にヒロ・デザイン
専門学校主催の「田山淳朗賞 高校生
ファッション画コンテスト in 九州・
沖縄」で準グランプリの熊本市特別
賞を受賞。特待生で田山氏が特別講
師を務める同校に入学。第95回装
苑賞では、最終選考の16人に残り、
6月に行われたショー形式の公開審
査に進んだが、惜しくも入賞を逃す。



高校生の時に読んで衝撃を受けた装苑に
自分がデザインした作品が掲載された



愛着ある
ヴィンテージの道具箱

あの舞台に

第95回装苑賞。20歳の本田麗安さんは最終選考15人と共に公開審査の壇上へ。あのコシノジュンコやヨウジヤマモトが受賞に名を連ねた、デザイナーにとって登竜門的コンテスト。ファッションを本格的に学び始めて3年目で、憧れの舞台に立った。

作品テーマは「KASANE」。長方形の布を折り曲げてできた三角の形を重ねて面を作る。色彩は、世界に存在するものの全てに肌があると考え、大地や海、花などを表す色を重ねた。これは人種問題から着想を得たものだ。

「若者が何を考えているかが求められる装苑賞。普段のかわい、きれいといった表面的な服ではなく、どんな理由で作ったのが大事だと思うんです。」

体力・時間・忍耐力・集中力・計画性が必要な制作過程は、しんどい場面も多い。でも、服の魅力が伝わると喜びになる。

生き方・考え方をまねる

本田さんはファッションと同

じくらい、考えることが好き。

「私は、心を揺さぶられるものに出会くと、作品ではなく、作った人の生き方・考え方をまねてみます。それは、デザインだけではありません。」

「小学生のとき、私は恥ずかしくて授業で手を挙げて質問できませんでした。エジソンが何でもすぐに質問していたと知り、やってみることに。すると、勉強が楽しくなったんです。」

時代や流行りは違っても、その偉人が成功している事実には違いない。その生き方や考えから学び、意識するかどうかで人生も変わる。これが、「味のあるかつこい人」を目指す本田さんの持論。

「新しい違和感」

彼女が通うヒロ・デザイン専門学校では、装苑賞審査員で同校特別講師の高島一精さんが審査委員長を務める、サマーファッションコンテストが毎年行われる。昨年のテーマは「マイホームタウン」。本田さんは、三角西港を題材に、この地で撮影された映画「るろうに剣心」か

ら明治期の西洋と日本が混じり合う世界観を研究。この「新しい違和感」をデザインに施した。すると、2年生ながら最優秀賞を受賞する。

学校で同期の原口彩海さんは、「麗安さんは考え方がいい意味で逸脱しています(笑)。人が考えないようなことを思いつくから会話をしている面白いですね。」と話す。

ものづくりで得た成長

「ヨウジヤマモトの考えを知っていると、ものづくりは人を成長させるのかなあと思っています。でも、本当にその通りなんです。作品を作る意味を調べていく過程で社会を知り、その社会に対して自分はどう思うのかを考えていく中で、自分自身を知る。そうして得た自分の生き方や在り方が作品に反映されますから。」

ファッションを勉強すると、それ以上にいろんなことを学び、全部が生き方につながっていると話す本田さん。その無限の好奇心と探究心は、また一つ彼女を成長へと導く。



装苑賞に提出した「KASANE」
薄い生地を一枚ずつ重ねて組み合わせる



三角西港が題材の作品 物事の発展の初期を表す「揺籃」がテーマ
作品を伝えるポートフォリオには生地も添付 背景はデザイン画